

令和6年度とやま呉西圏域調査研究事業に関する地域課題

No.	提案市	研究を依頼したい地域課題・研究テーマ	内容
1	高岡市	有効な移住・定住施策について（人口動態の分析）	圏域各市において、移住支援等に取り組んでいるところではあるが、人口動態は自然動態、社会動態ともに減少傾向にある。転入・転出の状況等から社会減の原因について分析し、圏域各市について、それぞれの市の地域の特色や違い、どのようなコンセプトで移住・定住施策を推進していくべきなのか、どのような地域であれば移住・定住したいと思えるのか、検証してもらいたい。 また、若者（特に女性）の大都市圏への流出が進んでおり、若者・子育て世帯を地域に移住または定住させることを目的とした効果的な手法について、有効な施策の検証及び提案をしてもらいたい
2	高岡市	地域で育む子育て環境形成への有効な施策について	核家族化の進行や共働き家庭の一般化により、子どもを取り巻く家庭や地域社会が大きく変化している。圏域各市においても、核家族化が進行し、地域社会のつながりが弱くなり、かつては、子どもや子育て家庭を支えてきた地域社会の子育て機能が、大きく低下している。親同士で情報を交換し、助け合う機会も少なくなっている。 地域で子育て家庭を支える社会の形成に向けて、圏域のスケールメリットを活かした有効な施策について検証及び提案をしてもらいたい。
3	氷見市 砺波市	大学生の卒業後の進路に関する意識調査と呉西圏域内に定住してもらうための政策提言	県内の大学に通う学生に卒業後の県内企業等への就職を促し、呉西圏域内への定住により人口減少対策につなげる。そこで、下記事項について調査・分析・提案をお願いしたい。 ①：県内の大学に通う学生の卒業後の進路に関する意識調査と分析 ・県内出身者、県外出身者等の属性ごとに富山県に残るのか、地元に戻るのか、それ以外かの現状把握とその理由など（富山県が平成27年度に実施した調査項目参照） ②：①の調査・分析を受けて、呉西圏域内に定住してもらうための政策提言
4	南砺市	若者のふるさと帰郷意識の変遷の検証と対策案の提案	圏域6市共通の課題である人口減少の原因の一つとして、進学等により転出した若者の再転入が少ないことがあげられる。各市において、ふるさと教育が積極的に行われているが、これらの取組によって醸成された小中学生（高校生も含む。）のふるさと意識が、進学・就職の関に大きく変化していると推測している。 そこで、過去の研究事業の成果を踏まえつつ、18～25歳の若者のふるさと帰郷意識が、いつ・何が原因で変化するのか、そのメカニズムを検証しつつ、若者のふるさと帰郷の意識を維持・向上させるために自治体・地域・企業に何ができるか、具体的な施策について提案をお願いしたい。
5	氷見市 射水市	とやま呉西圏域での若い女性の定着に向けた研究	若い女性の圏域外への流出、定着率の低さについては、とやま呉西圏域ビジョン懇談会や推進協議会でも大きな課題として取り上げられている。 令和3年度には、他の地域課題テーマである「有効な移住・定住施策について（人口動態の分析）」や、「地域で育む子育て環境形成への有効な施策について」、「大学生の卒業後の進路に関する意識調査と呉西圏域内に定住してもらうための政策提言」について研究いただいたが、これらの研究結果を参考としつつ、若い女性に特化した圏域内での定着に向けた研究を実施していただきたい。 若い女性の定着に寄与する要因としては、就労機会の確保が考えられるが、若い女性がどういった就労及び就職先を求めているのか、また、どういったメリットや環境があれば、圏域外への転出後に戻ってきたり、他地域から移住定住していただけるのか調査、研究をお願いしたい。
6	射水市	若者が働きたくなる企業の誘致策について	卒業後の県外流出による人口減少を抑えるためにも、若者が就業したくなる企業の誘致が必要不可欠である。 そこで、呉西圏域をとりまく環境分析や、学生の就業ニーズ調査を行うとともに、県外企業の進出条件や立地支援制度のニーズ等を調査し、若者が就業したくなる企業の誘致に向けた有効な取組を提案してもらいたい。
7	高岡市	カーボンニュートラルの推進に向けた施策について	将来の世代も安心して暮らせる、持続可能な経済社会をつくるため、カーボンニュートラルの実現に向け、呉西6市（行政分野・民間分野）で導入可能性のある電力需要・熱需要分野の省エネ技術（熱源の低炭素化、高効率設備、コージェネレーション）など、圏域の脱炭素化を推進する施策の提案をお願いしたい。
8	氷見市	SDGsポイント制度の実施について	現在、氷見市では「氷見ときと健康ポイント」という、市民の健康を良化するためのポイント制度を運用している。健康診断や健康教室、スポーツのイベントに参加した場合、台帳に規定のポイントがスタンプの押印により付与され、100pointが貯まるなど地域内商品券1,000円分と交換できるしくみとなっている。 このポイント制度を呉西圏域にも拡充し、電子アプリでポイントの管理を行うとともに、ポイントを付与する対象を市民のSDGsや食、環境等に関する行動（フードドライブ、海岸清掃）などにも拡大し、SDGsの目標達成に向けた活動等を促進するとともに、ポイント利用による地域経済の活性化を図るためには、いくつか課題はあるが、特に ・地域のどのような行動・イベントにポイントを付与するのが効果的か？ ・「人の行動を変えさせることができる」ポイントの付与率は？ ・高齢者にポイントアプリを利用してもらえるか？普及策は？ →出来ない場合の紙とアプリの並行管理は可能なのか？ などについて、先行自治体や各市の知見を集めながら検討していただきたい。
9	射水市	SDGsの浸透状況の検証と普及・啓発を促進する手法について	SDGsの認知度は年々高まってきており、呉西圏域の各自治体においてもそれぞれ普及・啓発に取り組んできた結果として、SDGsの理念を踏まえた活動に自治体、企業、学校、市民団体など様々なステークホルダーが参画するようになってきているが、呉西圏域におけるSDGsの認知度や理解度の実態については明らかにされていない。 そこで、呉西圏域におけるSDGsの浸透状況について検証・考察を行い、SDGsを取り巻く今後の情勢を踏まえたうえで、呉西圏域の各自治体が更なるSDGsの普及・啓発を推進するための実践的な手法（プログラム）について提案をお願いしたい。
10	南砺市	資源循環による課題解決と地域活性化を同時に解決する手法について	豊かで住みやすい暮らしを持続可能にするためには、自然との共生や生活環境の保全が重要であり、廃棄物の削減も積極的に進めていく必要があるが、1人当たりのゴミ量は増加傾向にある。 紙やプラスチック、金属などの再利用が一般化する中にある、野菜くずや剪定枝、もみガラ、木くずなどについても地域資源としての活用が期待されており、地域内で再利用し活用する方法や課題等について調査、研究をお願いしたい。
11	南砺市	GTFSDデータを活用したバス利用者の利便性向上やバス運行管理の効率化について	富山県内では令和元年にとやまロケーションシステムが運用開始され、県内のバス路線については全てGTFSDデータが整備され、グーグルマップなど経路検索サイトでの検索結果にバス路線が表示されるといったことが実現している。 さらにこうしたデータを利用して、利用者が最寄りのバス停から病院など目的地別に全ての路線やダイヤが簡単に出力できる機能や、運行ダイヤから乖離した場合に運転手に警告して早発を防止する機能、バス停に表示する時刻表を一括して印刷可能とするといったことが考えられることから、バス利用者の利便性向上やバス運行管理の向上・効率化を一層進めるため、今後のGTFSDデータ活用方法について提案をお願いしたい。
12	射水市	トークンエコノミーの導入について	令和元年10月の消費税率の引き上げと併せてキャッシュレス・ポイント還元事業が始まり、キャッシュレス決済が浸透している中、岐阜県の高山市、飛騨市、白川村では地域限定の電子通貨「さるぼほコイン」を導入している。このシステムを作ったのは、地域の金融機関（飛騨信用組合）であり、地域内での地産地消をコンセプトとしている。この事業に呉西圏域として取り組む場合の課題の洗い出しや地域経済循環の可能性など、検証をお願いしたい。 また、新たな資金調達の手段としてICO導入の検討を始めた自治体もある。金融庁では、ICOの規制を検討中であり、制約がかかる可能性があるが、新たな取組としての有効性の検証をお願いしたい。 ■トークンエコノミー …代替貨幣（トークン）を用いて形成される経済圏 ■ICO（Initial Coin Offering/新規仮想通貨公開） …資金調達をしたい企業や事業プロジェクトが、独自の仮想通貨を発行・販売し、資金を調達する手段
13	射水市	副業人材マッチングの手法について	近年、仕事と家庭の両立を図り生産性の向上を目指す「ワーク・ライフ・バランス」の実現に向けた取組が進められている。また、兼業・副業を認める動きが大企業を中心に進められており、加えて、新型コロナウイルス感染症による社会変革により、テレワークや在宅勤務への動きも急速に加速している。 人口減少が進む日本にとって、働き方や企業の人材確保のあり方を考える上で、大きな変革時期を迎えているといえる。 一方で、地方では副業の考え方が浸透していないのが現状である。そこで、テレワーク等の多様な働き方も踏まえながら、副業・兼業の人材マッチング導入の手法について調査、研究をお願いしたい。
14	砺波市	チューリップ花首の産業利用の可能性について	富山県の花である「チューリップ」は、呉西地域では砺波市をはじめ、他市においても球根栽培が行われている。 球根栽培においては、開花後、品種や病気の有無の確認が済み次第、球根を肥大化させるため、摘花作業が行われ、摘花された花首は、ほぼ廃棄されている。 廃棄される花首をバイオマスや日用品などの原材料とすることができれば、農家の収入増につながるなどの効果が期待できると考えるが、効果的な活用方法等について提案してもらいたい。
15	小矢部市	空き店舗の活用による商店街の活性化施策について	圏域内の多くの商店街において、空き店舗が増加することにより賑わいが薄れている現状があります。 空き店舗を取得・賃貸して出店する事業者に対する助成制度により、一定程度の新規出店需要を把握し、施策の有効性を認識しています。 しかしながら、空き店舗の増加が目立っており、その解消が難しいと感じていることから、新規出店促進のみならず商店街・地域単位での活用も含めた更なる空き店舗活用施策の研究、提案をお願いしたい。

令和6年度とやま呉西圏域調査研究事業に関する地域課題

No.	提案市	研究を依頼したい 地域課題・研究テーマ	内容
16	射水市	個人店舗の事業継続を支援する有効施策について	これまでの自治体や商業関連団体では、商業活性化策として開業支援を目的とした施策を重点的に展開してきた傾向がある。しかし、開業に伴う補助期間の終了と共に、廃業や閉店する店舗も実態として散見される。これからの人口減少時代において地域が生き残っていくためには、「長く愛される店舗」が集積することで地域内経済循環することが重要であり、そのために行政が求められる役割も模索していくことが求められている。 そこで、エリアリノベーションなどの萌芽的な動きがみられるエリアを対象に、開業後数年を迎える店舗の経営実態を調査し、問題の抽出や課題設定及び有効な施策の提案をお願いしたい。
17	射水市	生活景や文化的景観の再評価と保全のあり方	富山県内には、地域の生活や文化、生業を背景に形成された美しい景観（生活景、文化的景観）が数多く残っている。しかし、近年の人口減少や都市のスポンジ化により、景観の構成要素は消失しつつある。さらに、令和6年に発生した能登半島地震は、その動きを大きく加速させる恐れがある。今後、人を惹きつけ住み続ける地域を形成していくためには、失われようとしている景観の価値を再評価し、居心地良くウォーカブルな景観に向けて中長期的な保全の姿勢を示すことが重要である。 景観を保全する上での課題は以下が挙げられる。 ・どこの、なにを、保全するのか …地域外から見たら価値ある景観資源だが、地域住民にとっては当たり前であるため、住民理解が得られづらく、大切な景観要素が共有できていない。 ・誰が保全するのか …住民の合意形成が必要である既存制度を用いる場合、住民からの声が挙がらない限り自治体としても動くことができず、景観保全の取り組みが起ころづらくなっている。 ・どうやって保全するのか …これまでの景観保全の制度は、建築物等の形態を細かく規制をするようなルール／ガイドラインが多く、住民への負担の大きさが合意形成のハードルを高めていると考えられる。 以上を踏まえ、伝統的建造物群保存地区や富山県景観づくり住民協定などの取り組みが行われていない旧市街地エリアにおいて、景観を保全するための景観要素や保全していく仕組みについて、他地域の事例等も踏まえ調査・提案をお願いしたい。
18	射水市	買い物困難地域における生活利便性の維持・向上について	近年、地域住民の生活を支えてきた食品スーパーの閉店が相次ぎ、高齢者を中心とした買い物難者が増加している。一方、新たな食品スーパーの立地が望まれるところであるが、人口減少による顧客の減少が進む中、新規出店には大きな期待が持てないのが現状である。 こうした課題を解決し、市民の生活利便性を維持・向上が期待できる新たな取組を提案していただきたい。